

太子町立図書館視察報告書

おはなしレストランライブラリー司書 尾崎智子

1. 日時：平成22年9月10日（金）
2. 視察先：太子町立図書館
3. 対応：元館長 小寺啓章様

●館内

開館して、もう20年以上たっているのに、館内はとてもきれいでした。図書館職員の方が、毎日お掃除をされているそうです。

子どもの声が少ししましたが、静かな空間でした。機械の音がまったくしません。図書館側から音をたててはいけないという理由で、図書の貸し出しシステムは使用されていないとのこと。職員の休憩室も、カウンターから一番離れているところに設置されており、匂いや音がもれないようにされていました。

おはなし会専門の部屋がありました。子どもたちが、おはなしの世界に入り込めるように作られたそうです。そこで、毎週おはなし会や、団体で来館された方におはなしをされています。

●図書館職員

いつ、誰がきてもいいように、職員の方全員、得意のお話を2、3個もっておられるそうです。親しみのある人が読んだ方がよいため、図書館職員がおはなし会で本を読まれるそうです。児童図書コーナーに、机とイスが置いてあり、児童図書専門の方が、毎日座っておられます。

●選書

30、40年先のことを考えて、本の選書をされています。絵本は傷みが早い。新しい本を購入しようと思っても、絶版になっていたり、出版者がなくなっていたりして、購入することができないことが多い。だから、長く読み継がれている本、これからも読み継がれていくだろう本を、複数購入されるそうです。

視察を終えて

今回お話を伺った小寺様は、太子町立図書館が開館してから35年間、館長をされていた方です。太子町立図書館の設計をされたのも小寺様です。

いい図書館というと貸出冊数を見てしまいがちですが、太子町立図書館は、貸出冊数よりも、地域の人たちが安心して通える場所を目指しておられます。そんな場所があれば、

人が通ってくる。それが、貸出冊数にもつながってくるのです。

小寺様が、「子どもたちは図書館に人（司書）に会いに来るんですよ」とおっしゃいました。子どもたちの名前と顔を覚える。そして、その子の好きな本を知ること。信頼できる人がいる。それだけで図書館に行きたくなるはずですよ。

本棚には、長く読み継がれた本が並んでいました。そこには流行りの本はありません。太子町立図書館に通ってくるお母さんは、子どもころから通っていた方がたくさんおられるそうです。子どもころに読んでもらっていた本が、変わらず図書館にある。自然と図書館に行き、子どもに読んであげたいと思うのではないのでしょうか。

太子町立図書館は、居心地の良い図書館でした。それは、図書館が、利用者の方が利用しやすいように考えられて、作られていること。そして、職員の方の努力あってこそだと思います。

視察を終えて、利用者の方に、また来たいと思ってもらえる図書館にしたい、という気持ちがよりいっそう強くなりました。安心して楽しく通ってもらえる図書館になるためには、利用者の方に「会いたい」と思ってもらえる、職員にならなければなりません。小寺様に図書館職員として持っていたい気持ちをたくさんいただきました。